

あべつなよし はか  
安部綱吉の墓

市指定有形文化財（史跡）

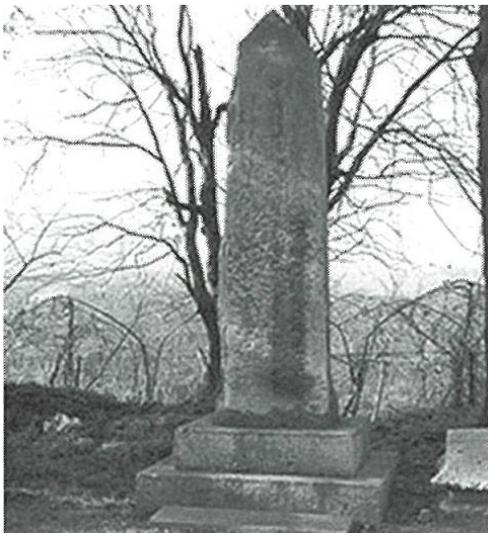
沖郷地区南部、宮崎にある綱正寺の墓地に、大きな墓が一基、東を向いて立っています。高さ約3.7m、大きく堂々とした碑面に次の銘文が刻まれています。

碑面の上部に「○無二無三」、碑面の下部には、右端から「為北条郡之代官当所并綱正禅寺」、「欽似開基安部綱吉法名暮山早日居士」、「千時正保四丁亥四月二日建立也」と3行で刻まれています。この銘文から、これが正保4（1647）年に建立された「北条郷代官安部綱吉の墓」であることが分かります。

江戸時代初期、寛永6（1629）年に北条郷代官となった安部綱正は、初代安部右馬助綱吉を襲名し、北条郷の開拓に大きな功績を残しました。

慶長5（1600）年、120万石から30万石へ減封されて伊達・信夫・置賜三郡に入部した米沢藩にとって、領内の開拓は必死の大事業でした。北条郷代官となった安部綱吉は、宮内の町割り、神社仏閣の整備を行うとともに、宮崎をはじめ蒲生田、金山、三間通、川樋、漆山、池黒、白龍湖周辺の大谷地などを開拓しました。とりわけ、厨川（吉野川）の流路が変わり、水不足となった宮崎の開拓は難航しましたが、開拓の拠点である宮崎田屋に寺を建て難事業に挑んだのでした。

その成果によって北条郷は飛躍的に豊かになりました。そのため、北条郷の人々は、代官安部右馬助綱吉にいつまでも敬意と感謝の念を持ち続けました。



南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄  
平成28年10月1日号 市報なんよう掲載